

くすり一口メモ

空腹時の服薬意義

多くの内服薬は、飲み忘れを防ぎ胃腸障害などの副作用を軽減する目的で食後に投与されています。しかし、食事の影響や薬理作用上の観点から、空腹時に服用しなければならない薬剤も存在します。今回は添付文書に空腹時投与（食前、食直前、食間、時間投与など）の記載のある薬剤を取り上げ、服用時点とその根拠についてまとめました。なお、下記の表は本会誌（平成14年2月号）に投稿した内容に新薬を追加し改定したものです。

	主な商品名（成分名）	服用時点とその根拠
食 前	キネダック （エバルレスタット）	食後高血糖による神経内ソルビトール増加時に血中濃度が高くなるよう食前（食事30分前）に服用。食後投与は、空腹時に比べ吸収率が30%減少するとの報告がある。
	リマクタン （リファンピシン）	食前投与の方が食後投与に比べて血中濃度が高いという報告に基づき、1日1回朝食前投与としている。胃腸障害がある場合は食後投与を推奨。
	ガナトン（イトブリド） ナウゼリン（ドンペリドン） プリンペラン（メトクロプラミド）	制吐剤であり、又、消化管の蠕動運動を亢進させて食後胃内の食物が長く滞留しないように腹部の不快感を改善するため、食前（食事30分前）投与がより効果的である。
	コレバイン（コレステミド）	食前と食後投与の薬効の差はほとんどないとのこと。ただし併用薬がある場合、酸性薬剤等は作用が减弱される可能性もあるため、原則として食前投与としている。
	リルテック（リルゾール）	高脂肪食摂取後投与は空腹時投与より血中濃度が低下するという報告に基づき、食前投与としている。
食 直 前	ファスティック（ナテグリニド） グルファスト （ミチグリニド カルシウム水和物）	速やかなインスリン分泌作用により食後の過血糖を改善するため、食直前（ファスティック：食前10分以内、グルファスト：食前5分以内）に服用。食後投与では吸収が悪く十分な効果が得られず、又、食事30分前投与では食事前に低血糖を起こす危険性がある。
	ベイスンOD（ボグリボース） グルコバイ（アカルボース）	食物中の二糖類の消化吸収を遅らせるため、食直前（一口目の食事と同時に）に服用。食後60分までの血糖上昇を、食直前投与では約70%抑制するが、食事10分前投与では約30%しか抑制せず、食事30分前投与では効果がほとんど得られないとの報告がある。（グルコバイのデータより）
そ の 他	ベネット・アクトネル （リセドロン酸ナトリウム水和物）	2価の陽イオン（Ca、Mg等）とキレートを形成し吸収が低下するため、食物との影響を全く受けさせない目的で、起床時に必ず水で服用。服用後30分以上は、飲食（水を除く）の摂取を避ける。
	ユーゼル （ホリナート カルシウム）	ユーエフティ（テガフル/ウラシル）と同時に、食事の前後1時間を避けて約8時間ごとに服用。空腹時に比べて食後（高脂肪食摂取後）投与時のウラシルのAUCおよびテガフルから変換されたフルオロウラシルのAUCは、それぞれ67%、37%減少したとの報告（海外データ）に基づく。
	ブイフェンド （ポリコナゾール）	高脂肪食摂取後投与のC _{max} とAUCは、空腹時投与に比べてそれぞれ34%、24%減少したとの外国人データに基づき、食事の影響を受けないように食間投与としている。
	漢方薬	経験的な考えから空腹時の方の吸収が良いといわれ、又、食物や西洋薬との相互作用を回避するという観点から食前または食間の服用とされている。
	メタルカプターゼ （ベニシラミン）	2価の金属イオンと結合しやすいため、食事との間隔をあけ空腹時の食前または食間に服用。
	クレメジン（炭素）	食事の影響を受けないので、食前、食後、食間のいずれに服用してもかまわない。ただし、併用薬がある場合は、その薬効を减弱させる可能性があるため、30分以上の間隔をあけて服用。（この理由により、食間服用とされる場合が多い）
	アルロイドG （アルギン酸ナトリウム）	胃や食道の粘膜を覆って保護するため、空腹時の食前または食間の服用がより効果的である。

【参考文献】 各社メーカー 添付文書・資料
（鹿児島市医師会病院薬剤部 桐野 玲子）